

令和5年度 第1回丸亀市産業振興推進会議 全体会議 (会議録)	
日 時	令和5年7月14日(金) 午後2時～午後4時20分
場 所	ボートレースまらがめ4階 スマイル会議室
	<p>(丸亀市産業振興推進会議 委員) 22名中、16名出席 綾野委員、内海委員、桑田委員、小山会長、菅沼委員、杉尾副会長、 筒井委員、豊島委員、西川 平二委員、馬場委員、濱本委員、 藤井委員、古沢委員、松岡委員、松下委員、矢野委員 (五十音順)</p>
	<p>(丸亀市産業文化部) 林部長 (丸亀市産業文化部 産業観光課) 平尾課長、志村副課長、逢坂観光担当長、村山商工労政担当長、 吉田副主任、請川主事 (丸亀市産業文化部 農林水産課) 川池課長、造田担当長 (丸亀市産業文化部 文化課) 廣瀬総括担当長 (丸亀市農業委員会) 大西次長</p>
欠席者	川田委員、柴田委員、西川 正則委員、 東原委員、真鍋 有紀子委員、真鍋 宣訓委員 (五十音順)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 2. 挨拶(林部長) 3. 自己紹介 4. 丸亀市産業振興推進会議について 5. 会長、副会長の互選 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第二次産業振興計画実施計画(2022年度取組実績報告)について (2) 専門部会の構成について (3) 第三次産業振興計画実施計画について (4) うちわのミュージアム跡地の利活用について (5) その他 7. 周知事項等

会 議 の 概 要

1. 委嘱状交付

委嘱状及びその他配布資料の説明。

2. 挨拶

丸亀市産業文化部 林部長より挨拶。

3. 自己紹介

委員・事務局員の自己紹介。

4. 丸亀市産業振興推進会議について

(事務局)

資料1により、丸亀市産業振興計画や丸亀市産業振興推進会議の役割の説明。

5. 会長、副会長の互選

(事務局)

会長、副会長の互選について意見はあるか。

(西川委員)

事務局より何か案はあるか。あれば一任したい。

(事務局)

西川委員より事務局に一任の案をいただいたが、よろしいか。

【各委員、意見なし】

(事務局)

事務局に一任いただいたので、会長に京都橘大学経済学部准教授の小山様、副会長に丸亀市中央商店街振興組合連合会の代表理事の杉尾様をお願いしたい。

【各委員、賛同の拍手】

(事務局)

小山会長は会長席に移り下さい。

(小山会長) (杉尾副会長)

挨拶

(事務局)

ここからは小山会長に議事進行をお願いしたい。

6. 議事

(1) 第二次産業振興計画実施計画(2022年度取組実績報告)について

(事務局)

資料3により第二次産業振興計画の実績報告。

(小山会長)

2022年度についてはコロナ禍で各種イベント等については厳しい状況にあった中でも、産業振興や観光の点で成果があったように思う。特に、地域経済にとっての課題であった人材不足の克服に向けた産業教育の育成やインターンシップ制度の充実が目標値を上回る実績である。地域経済というのは地域の人々で作ることができるし、協力すれば活性化させる事もできるので、このような取り組みを少しずつ積み上げていただきたい。2023年度についても、更に農業や地域内経済循環を意識した政策も盛り込まれており、引き続き取り組んでいただきたいと思う。

他に質問や意見はあるか。

(松岡委員)

農業関係の1-1-1の項目について、新規就農者数が4人となり良い評価(A)をいただいているが、この項目の問題として農業従事者の高齢化や後継者不足が挙げられている中で、新規就農者数が目標2人に対して4人というのは満足出来るものではないと思う。この4人でどれだけの平均面積であったか、どういう経営形態なのかを教えてください。目標2人に対して4人増えたことは素晴らしいと思うが、高齢者対策や労働力不足をカバー出来るようなものになっているのか知りたい。

(農林水産課・川池課長)

ご意見に対する回答として、丸亀市では農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想という計画を作っている。この中で丸亀市としては新規就農者の確保及び育成を掲げているという観点から、丸亀市として年間3人の就農者を確保し育成を図っていく計画を立てている。その為に産業振興実施計画の中に新規就農者数を計上している。今回の新規就農者4人については、ほとんどが露地野菜や施設野菜から始めている。面積にしても取り掛かり始めたばかりであり、五反から一町程度から始めてもらい、そこで修行を積んでもらい、今後地域の担い手となってもらうべく指導していつている。

(2) 専門部会の構成について

(小山会長)

専門部会の構成について事務局から何か案はあるか。

(事務局) ※資料を配布

昨年度は、農業・水産業部会、商工業・新産業部会、地場・観光産業部会の3つの部会を設置し、第3次振興計画について審議していただいた。しかしながら、計画の分野分けが農業・水産業、工業・地場伝統産業、商業・サービス業、観光産業と分かれている

ので、前々回と同じく農業・水産業部会、工業・地場伝統産業部会、商業・サービス業・観光産業部会に分けさせていただいた。

(小山会長)

この案に対して何か意見のある方はいるか。

(矢野委員)

地場伝統産業と観光産業のドッキングは我々の中で大きな課題となっている。その中で、今回は具体的になっておりやり易いように思っていたが、前々回の構成に戻したのは何故か教えて欲しい。

(事務局)

前回、会議を進めていく中で、各専門部会より産業振興計画と各分野の分け方が多少ズレており、しっくり来ないという意見があり、それを踏まえ前々回のものに戻した。

(小山会長)

前回、第三次丸亀市産業振興計画を作成する際に、各項目別に具体的に政策の方向性や基本的な考えを作っていたが、農業・水産業、工業・地場伝統産業、商業・サービス業、観光産業として部会ごとに審議していく中で、部会ごとに項目が重なっている部分があり、どこをどう分けて審議していくかが議論になっていた事を踏まえ、前々回の部会構成にしてみようという話になった。

(矢野委員)

たしかに前回そのような議論を行ったと記憶している。ただこの問題は、まだ継続中であり、次回どうなるか分からないが、今後また煮詰めていけたらと思う。

(事務局)

では、提案させていただいた部会分けで今回させていただく。

【各委員、各部会に分かれる】

(3) 第三次産業振興計画実施計画について

【各専門部会で意見交換・発表】

(農業・水産業部会、松岡委員)

新しい施策についての質問と提言が中心にあった。その中で、遊休農地の活用については色々難しいと思うので花の種を植えてはどうかという意見もあった。後継者の育成については、新規就農者に力を入れているが、ある一定の経験者に対しての別の施策も考えてはどうかとの意見も出た。特産品の開発についての意見では、桃は技術的にも難しいものがある、アスパラについては市の目玉として力を入れていきたいという話が出た。その他には、遊休農地の定義はどうなっているのか、学生に農業への関心を持ってもら

うために体験学習を行うのが必要ではないのか、という質問が出た。

(工業・地場伝統産業部会、筒井委員)

第3次計画の中で、昔からある項目に対しては思い切って削除すべきものは削除してみても良いのではないかという意見が出た。また、産業振興支援補助金に対しては利用している方が多く良い補助金であると分かるが、数字のフィードバックが出来ないのか、どのように補助金が使われたのか活用例みたいなものがあれば次に使う方にとって更に分かりやすいものとなるという意見も出た。

(商業・サービス業・観光産業部会、西川委員)

商店街や観光の話、色々意見は出てきたが、もう少し専門部会に時間を割き、深掘りしていくべきではないかと思う。今回の専門部会では様々な質問に対して、その場で回答もいただいた。しかし、個人的にもあまりにも時間が少ないように感じる。出来れば行政にもお願いしたいのだが、委員の方も市民として色々な役割を受け持ちながら来ている。その為にも、今後それぞれの専門部会にもっと時間を使ってやれると有り難いと思う。

(4) うちの港ミュージアム跡地の利活用について

(事務局)

- ・うちの港ミュージアム跡地の活用について概要を説明。

【各専門部会で意見交換・発表】

(農業・水産業部会、松岡委員)

道の駅や海の駅という案が出た。そこで特産物の直売を行ってはどうかという話もあった。しかし、駐車場の問題があるので、小型の道の駅になるという意見があった。また、近隣に温泉が無いので温泉でも良いという話も出た。瀬戸芸に向けた外国人客向けの高級ホテルやイベントスペースとしての活用という意見もあった。

(工業・地場伝統産業部会、筒井委員)

夜の丸亀の雰囲気、好立地を生かせる温泉施設が良いという意見が出た。また、行政が関わるのならば、南海地震の津波対策としての施設を作って欲しい。他には高齢者の施設にすべきとの意見も出た。どの活用にしても、行政が駐車場はどうするのか、駅からの道をどう整備していくのが大事なのではないかと思う。

(商業・サービス業・観光産業部会、吉田副主任)

周りに企業が多い為、企業PR館のような施設にしてはどうか、20代の方のワーキングスペースとしての活用という意見もあった。その他には、うどん作り体験の出来る施設や丸亀製麺1号店、ハワイアン珈琲店、10代や20代の行き場を作っても良いのではないかという意見も出た。

(小山会長)

地元の方が中心に利用するのか、観光客の方も含めて利用するのかで変わってくるのかと思う。バス路線が無いのであれば、無人バスを巡回させる方法もあるかもしれない、それにより補助金の対象となる可能性もあると思う。

(5) その他

(事務局)

- ・議事録作成と送付の案内。
- ・スタートアップセミナーの案内。
- ・丸亀ボートレース場施設 (Gruun と Mooovi) 見学案内。

(松岡委員) ※資料を配布

・私の農業委員での任期が今月19日までであり、本会議に出るのも今日で最後となる。最後に食用農業に対する私の思いを述べさせていただきたい。先日小学校で指導を行った際に朝ご飯を食べたかと質問したところ、ご飯とパンではパンを食べたという人が若干多く驚いた。日本は外国に比べると土地条件が悪く、価格が高くなる。日本で作られた高いもの、外国でつくられた安いもの、あなたならどちらを買いますかと質問した際に、小学生は答えなかったが、小学校の先生は即座に安いものと答えた。スイスでは高くても自国のものを買おうという教育が進んでいる。日本では、安い外国のものを選ぶ人がほとんどだと思うが、食糧安全保障のためにも、日本産を選ぶことによって農家が守られ、不測の事態にも対応できる食農教育が大切であると思う。

子供に対する教育だけでなく、先生の教育、消費者の意識改革も必要となる。

世界では感染症等の不安が広がる中、日本の食農自給率は38%。不測の事態に備えて自給力を上げるには土地が必要であり、そしてそれを作る能力が必要となってくる。しかし、現状地域農業を支えてきた家族農家のほとんどが赤字経営が続いており、かつ農家の後継者がいない。何故、後継者がいない、育たないかと言うと米の単価が安いからだ。米価はいくらだったら再生産できるのかというと、配布資料の通り、米の生産調査を見ても、労働費等は無償とした場合でも赤字となる。企業の場合だととっくに倒産している状況であり、農家の場合はなんとかやり繰りしている状況。

この資料の通り、農業が続けられないのは当然かなと委員の皆さんもお分かりいただけたかと思う。農業農産対策としては、まず食農自給率を上げるために消費者の意識を変えていくことが必要である。そして、行政にお願いしたいこととしては地域政策を重視していく必要があるということだ。

(西川 平二委員)

- ・今回、中小企業家同友会で1月27日に会が開催され、その中で分科会を設け、講師を小山会長にお願いする予定だ。新しい方も含め、小山会長の話を1時間も聞ける良い機会であり、是非お時間を取っていただければと思う。また詳細が決まり次第、改めて案内させていただきたい。

午後4時20分閉会

(以上)